個人投資家向け会社説明会

2023年2月13日（月）

証券コード：4886
あすか製薬ホールディングス株式会社

重要な注意

- この資料に含まれる将来の予測に関する事項は、発表日現在において入手可能な情報による当社の仮定および判断に基づくものであり、既知または未知のリスクおよび不確実性が内在しております。

- したがって、実際の業績、開発見通し等は今後さまざまな要因によって大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき願います。

- 医薬品（開発中のものを含む）に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。

本日の内容

1. あすか製薬ホールディングスとは
2. 事業会社の紹介
3. あすか製薬ホールディングスの成長戦略
4. ESGの取り組み
5. 直近の業績

あすか製薬ホールディングスとは

あすか製薬ホールディングスの歩み

世のため人のため、国益を最優先する志が事業の原点

1893年（明治26年）
創業者山口八十八が洋酒・食料品輸入商「山口八十八商店」を開業。
輸入一辺倒の状況に疑問を抱き、国益に資するべく食品の国産化を目指し、食品製造業への進出を図る。


創業者 山口八十八

1908年（明治41年）
「帝国社食品工場」を開設、国内初の人造バター（マーガリン）を製造・販売。
以後、牛脂、豚脂、肉・野菜の缶詰、ハムなど次々と国産化に成功。
製造の過程で大量に廃棄されていた動物の臓器に着目、独自のホルモン薬の研究を開始し、国産の医薬品開発を目指す。



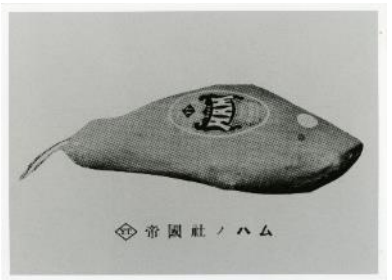
帝国社食品工場

1920年（大正9年）
「帝国社臓器薬研究所」を創設、男性ホルモン製剤「スペルマチン」の製造・販売を開始し、医薬品製造業に進出。（当社の創立）


人造バター（マーガリン）



野菜の缶詰



ハム


男性ホルモン製剤「スペルマチン」

ホルモンとは
主に内分泌臓器や組織でつくられ、体のいろいろな機能を調節する働きがあります。
非常に少ない分量で効果があります。

あすか製薬ホールディングスの歩み

創立以来100年にわたってホルモンの研究開発で社会課題解決に取り組む



1920年～
製薬企業としての第一歩を踏み出す



1955年～
株式上場
成長～発展



2005年～
あすか製薬誕生
さらなる発展へ

連結売上高
566億円

独創的な発想で次々とホルモン製剤を発売

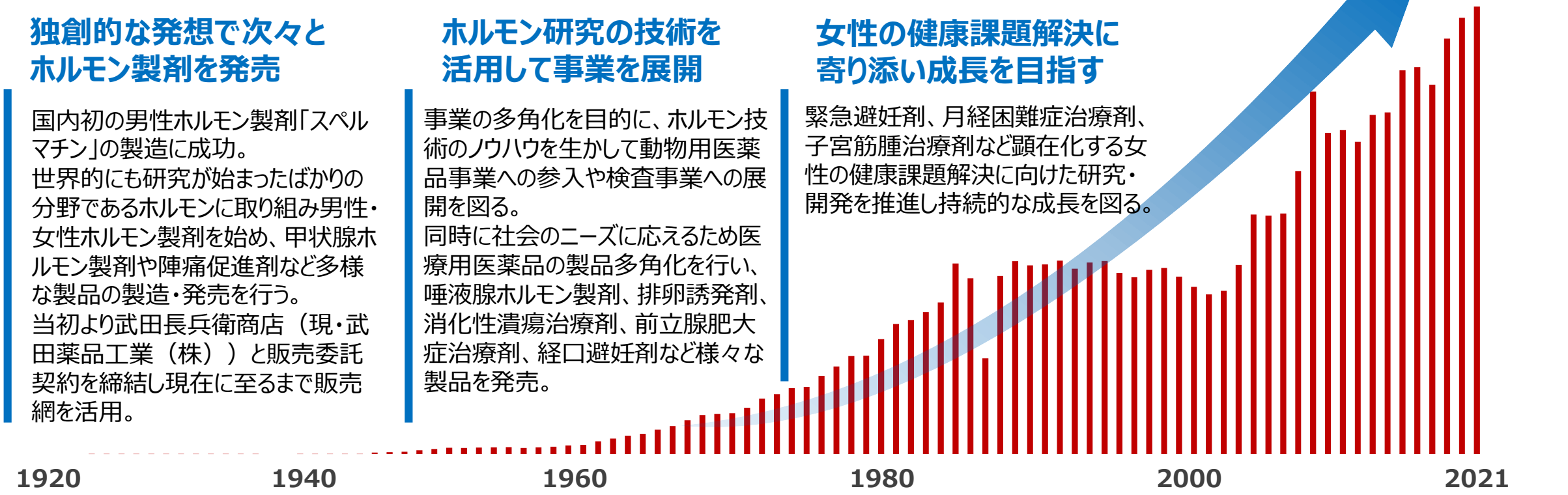
国内初の男性ホルモン製剤「スペルマチン」の製造に成功。
世界的にも研究が始まったばかりの分野であるホルモンに取り組み男性・女性ホルモン製剤を始め、甲状腺ホルモン製剤や陣痛促進剤など多様な製品の製造・発売を行う。
当初より武田長兵衛商店（現・武田薬品工業（株））と販売委託契約を締結し現在に至るまで販売網を活用。

ホルモン研究の技術を活用して事業を展開

事業の多角化を目的に、ホルモン技術のノウハウを生かして動物用医薬品事業への参入や検査事業への展開を図る。
同時に社会のニーズに応えるため医療用医薬品の製品多角化を行い、唾液腺ホルモン製剤、排卵誘発剤、消化性潰瘍治療剤、前立腺肥大症治療剤、経口避妊剤など様々な製品を発売。

女性の健康課題解決に寄り添い成長を目指す

緊急避妊剤、月経困難症治療剤、子宮筋腫治療剤など顕在化する女性の健康課題解決に向けた研究・開発を推進し持続的な成長を図る。

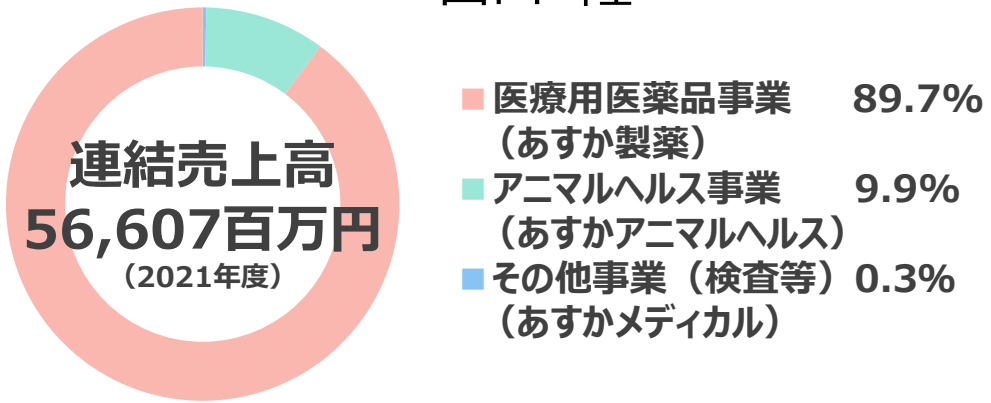


あすか製薬ホールディングスの概要

商号	あすか製薬ホールディングス株式会社
設立年月日	2021年4月1日
経営理念	先端の創薬を通じて 人々の健康と明日の社会に貢献する
資本金	11億9,790万円
単元株式数	100株
本社所在地	東京都港区芝浦二丁目5番1号
従業員数（連結）	777人※1
グループ会社数	連結子会社：3社 持分法適用関連会社：3社
時価総額	380億8,174万円※2
証券コード	4886（東証プライム）



代表取締役社長
山口　隆



※1　従業員数・グループ会社数は2022年3月30日現在
※2　時価総額は2023年1月31日付終値（1,246円）より算出

事業会社の紹介

あすか製薬株式会社

経営理念

先端の創薬を通じて人々の健康と明日の医療に貢献する

３つの重点領域において医療用医薬品事業を展開しています

内科領域
(消化器･甲状腺)

産婦人科領域

泌尿器科領域

ホルモン製剤のパイオニアとして人々の健康とQOLに貢献します

医療用医薬品とは

主に医師または歯科医師が診断のうえ、患者さん一人ひとりの病気やけがの程度などを判断して処方し、薬剤師が調剤して使用されるくすりのことです。

領域別売上構成比

内科領域（その他）

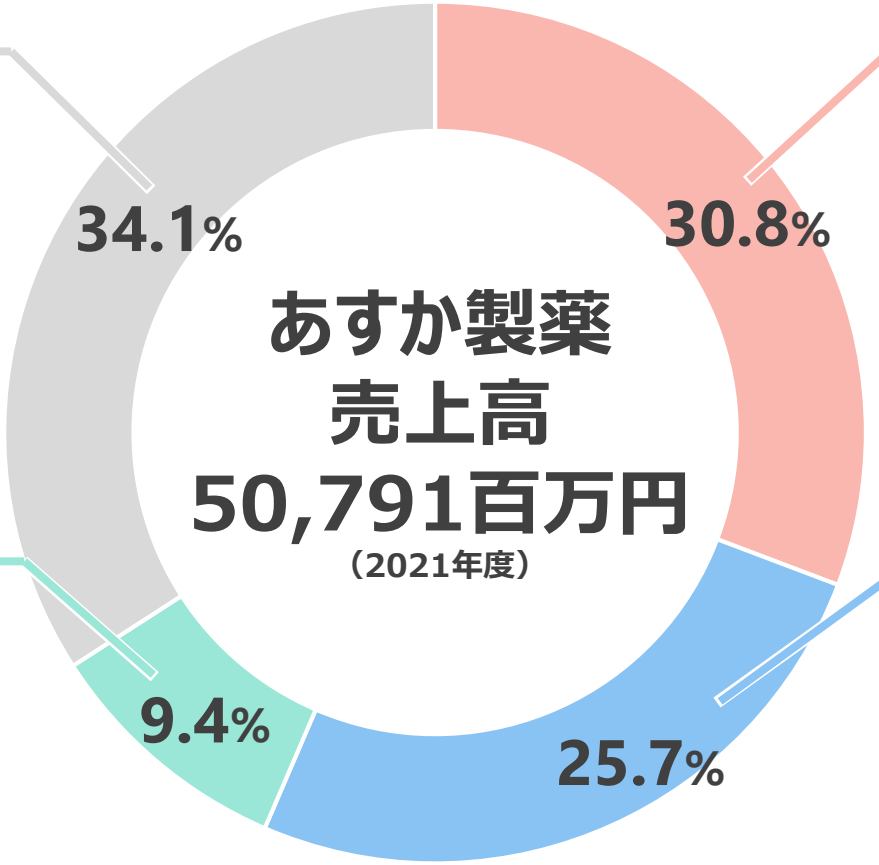


持続性アンジオテンシンII受容体拮抗剤
「カンデサルタンあすか」

泌尿器科領域



LH-RH誘導体マイクロカプセル型徐放性製剤
「リュープロレリンあすか」



産婦人科領域



月経困難症治療剤
「フリウェルあすか」



GnRHアンタゴニスト
「レルミナ」

内科領域（消化器・甲状腺）



難吸収性リファマイシン系抗菌薬
「リフキシマ」



甲状腺ホルモン製剤
「チラーヂン」

ホルモン製剤のパイオニア

ホルモン製剤の研究開発に100年

人々の健康とQOLの向上に貢献

1920
帝国社臓器薬研究所設立



2020
創立100周年

1921
男性生殖腺ホルモン製剤「スペルマチン」発売



1922
甲状腺機能低下症治療剤「チラーヂン」発売



1926
陣痛促進剤「アトニン」発売



1932
卵胞ホルモン製剤「オバホルモン」発売



1943
合成女性ホルモン製剤「スロン」発売



1953
唾液腺ホルモン製剤「パロチン」発売



1983
前立腺肥大症・前立腺癌治療剤「プロスタール」発売



1999
経口避妊剤「アンジュ」発売



2011
緊急避妊剤「ノルレボ」発売



2019
GnRHアンタゴニスト「レルミナ」発売



あすかアニマルヘルス株式会社

経営理念

動物の健康と食の安全を守ることにより、人と動物が共生できる
社会づくりに貢献する

畜水産領域の繁殖・免疫と栄養に強みを持ち、
コンパニオンアニマルの健康を支える唯一無二の企業になる

畜水産分野

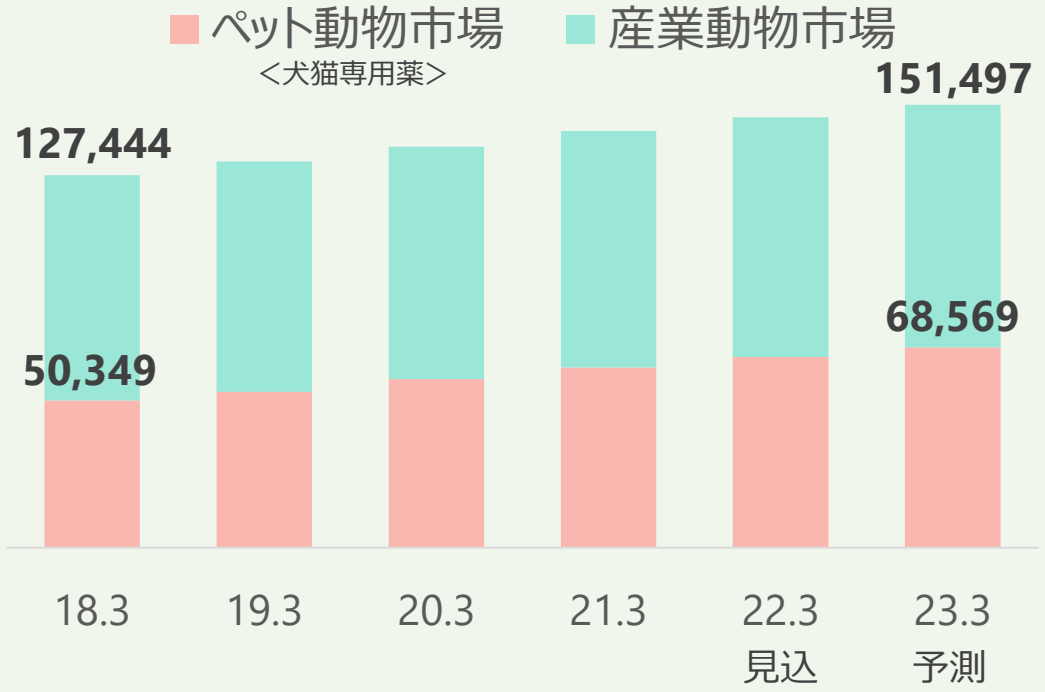
**コンパニオン
アニマルヘルス**

人と動物が共生できる社会づくりに貢献します

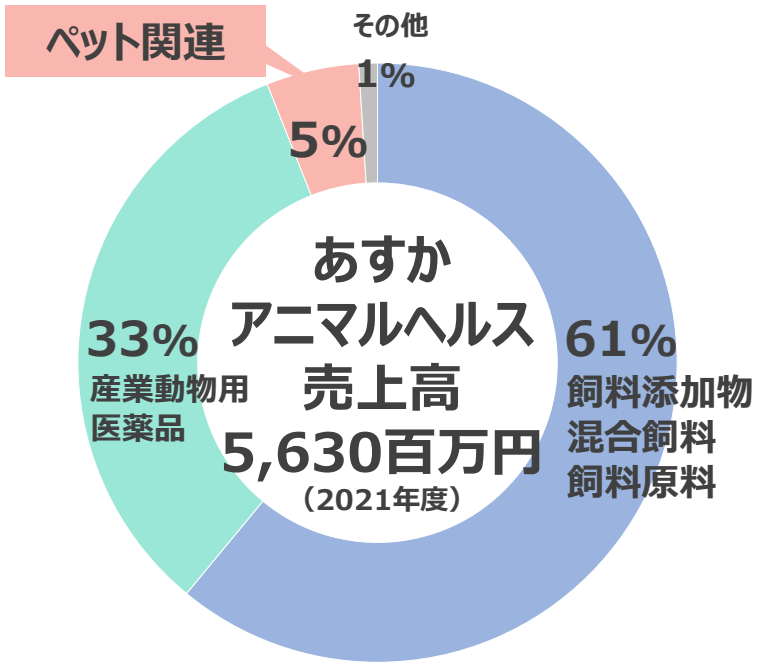
国内動物用医薬品市場と領域別売上構成比

国内動物用医薬品市場動向

単位：百万円　自社推計



グループのシナジーを活用し
成長が予測されている
ペット市場での拡大を目指す



2021年1月発売 メルカゾール（医療用医薬品）からの転用
猫甲状腺機能亢進症治療剤「チロブロック」

2022年11月発売 新剤型ジェネリック
犬副腎皮質機能亢進症治療剤「トリロスタン」

株式会社あすか製薬メディカル

経営理念

最新の測定技術を通して豊かな健康社会づくりに貢献します

独自の技術を用いてステロイドホルモンをはじめとする物質の
測定を中心に様々な分野での貢献を目指しています

**内因性ホルモン
微量測定**

毛髪診断

ホルモン質量分析といえば「あすか製薬メディカル」

あすか製薬メディカルの技術

ホルモンビジネスを柱に事業展開

研究検体受託

毛髪診断事業

甲状腺疾患検査事業

メディカルの毛髪検査の特徴

✓少量の毛髪で検査が可能

✓非侵襲性　✓検体の自己採取が可能

毛髪診断による検査キット開発を推進

毛髪ホルモン量測定キット
ジヒドロテストステロン（DHT）

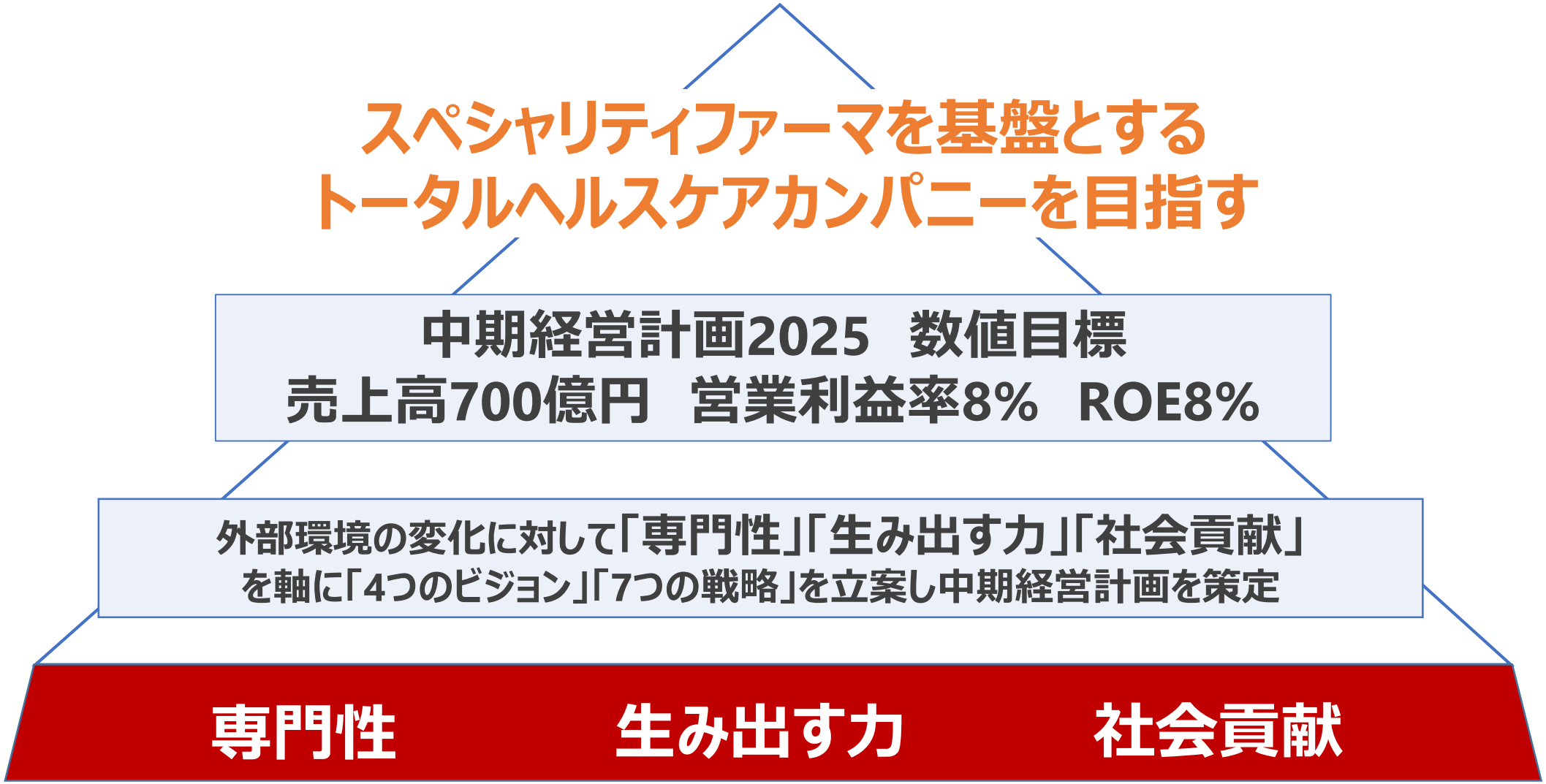


AGAの主な要因となるDHTの測定が可能

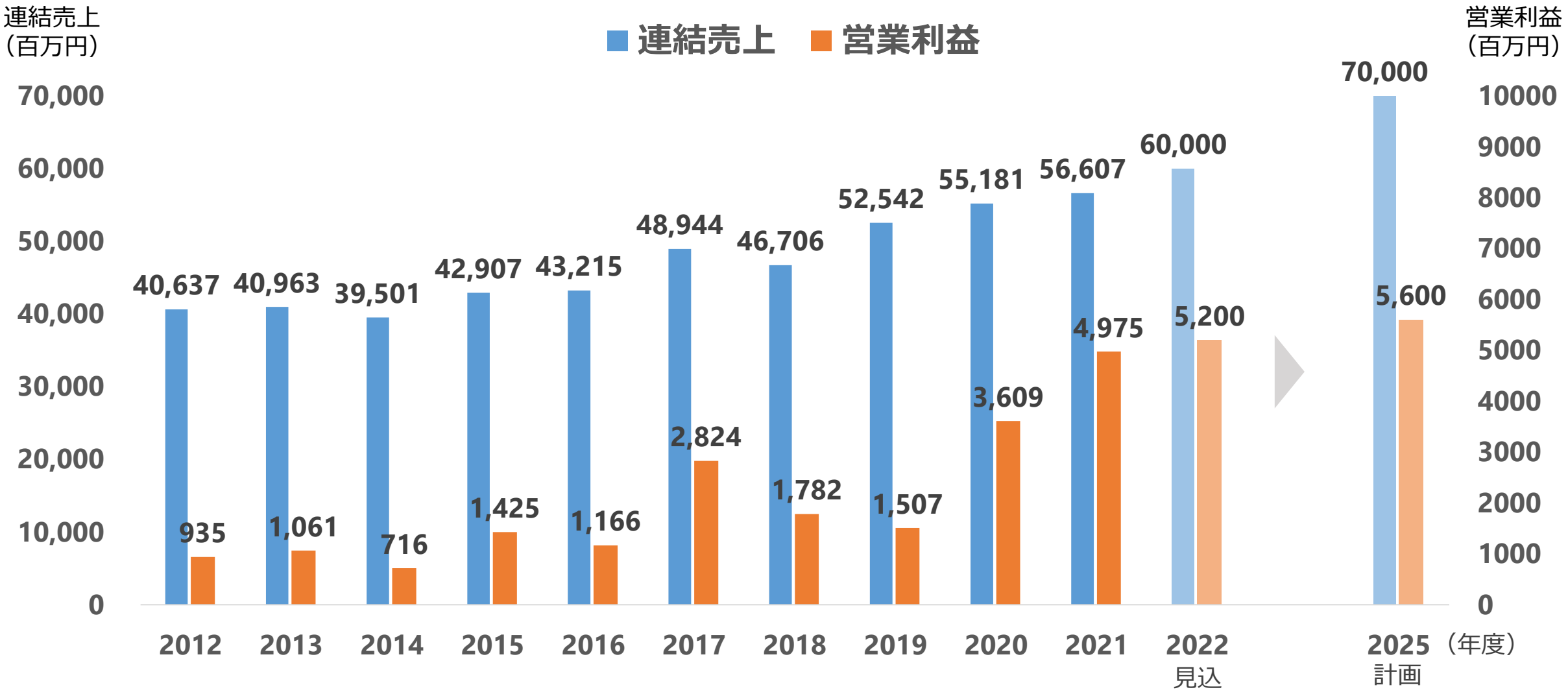
＜発売準備中＞
テストステロン：男性更年期障害
コルチゾール：ストレス

あすか製薬ホールディングスの成長戦略

成長戦略（中期経営計画2025の目指す姿）



10年間の軌跡と中期経営計画目標



中期経営計画2025 4つのビジョンと7つの戦略

＜4つのビジョン＞

医療用医薬品を軸にスコープ
（領域、地域）を拡大する

オープンイノベーション推進により業務革新を実現する
（研究開発ー生産ー販売まで）

中核となる医薬品事業（スペシャリティ領域）で
国内トップを確立する

社会から信頼され続ける会社であり続ける

＜7つの戦略＞

スペシャリティ領域の
取り組み強化による
企業価値向上

先端創薬による
新薬の継続的創出

海外事業の展開

トータルヘルスケア実現に
向けた新たな価値提供

業務効率化、
コスト削減、
財務基盤の強化

コンプライアンスの徹底と
信頼性を重視する
組織風土の醸成

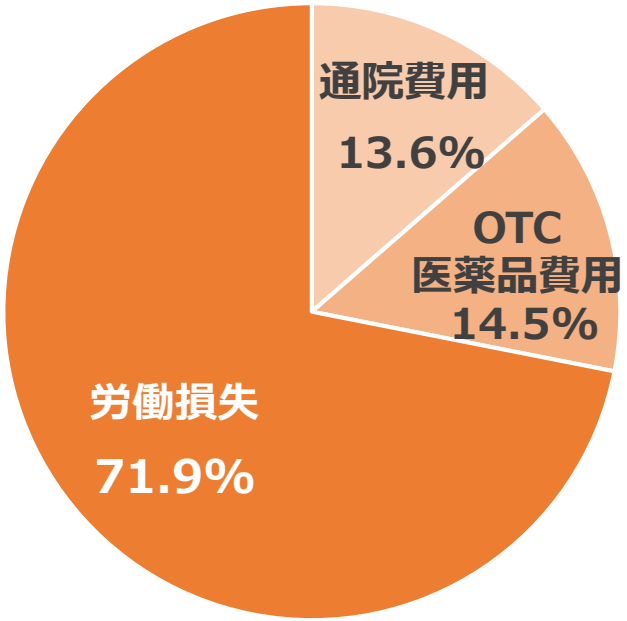
成長戦略を実現する
ための人材育成

スペシャリティ領域の取り組み強化による企業価値向上

産婦人科領域において
女性の健康課題解決に取り組み
持続的な成長を目指す

女性の健康問題

月経随伴症状による1年間の社会経済的負担



内訳	推計額
通院費用	930億円
OTC医薬品費用	987億円
労働損失	4,911億円
総計	6,828億円

Tanaka E,Momoeda M,Osuga Y et al. J Med Econ 2013;16(11):1255-1266に基づき作成

職場における女性の健康に関する現在の課題

女性が比較的多い職種における課題
例）接客業・立ち仕事・コールセンターなどの職種におけるメンタルヘルスや喫煙率の増加など

月経における課題
例）プレゼンティーイズムの損失やリテラシー不足など

女性特有の疾病における課題
例）仕事との両立や婦人科検診の有無など

妊娠・出産における課題
例）キャリアチャンスの喪失など

更年期障害における課題
例）仕事や介護との両立や職場におけるチャンスの喪失など

出典：経産省ヘルスケア産業課「健康経営における女性の健康の取り組みについて」

ライフイベントの変化による月経回数の増加

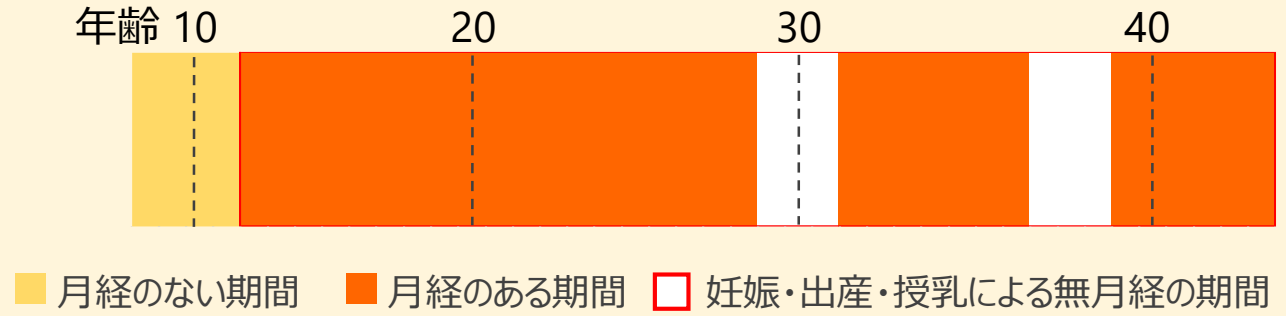
現代の女性は、昔の女性に比べ初経が早く、晩婚化の傾向にあり出産回数が減少している。
生涯に経験する月経回数が増えたことが、月経困難症等の月経トラブルが増えた要因として考えられている。

現代女性の月経回数

生涯の月経回数：**約450回**

生涯の出産回数：**約2回**

現代女性の月経期間

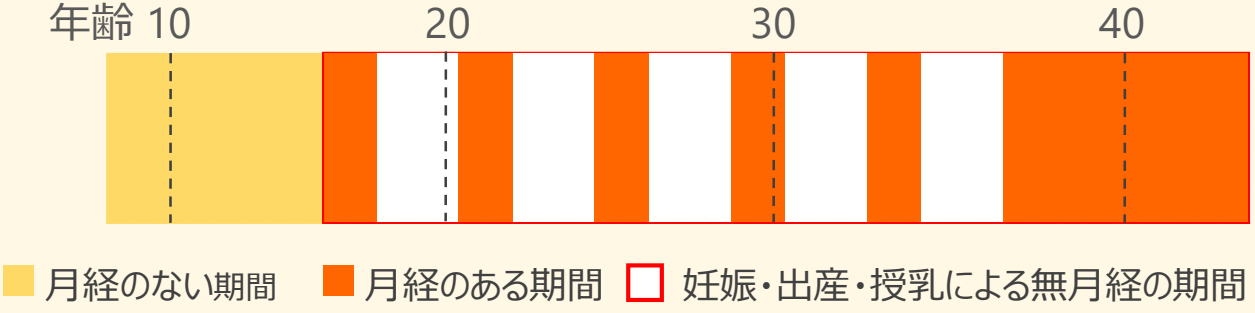


昔の女性の月経回数

生涯の月経回数：**約50回**

生涯の出産回数：**約5回**

昔の女性の月経期間

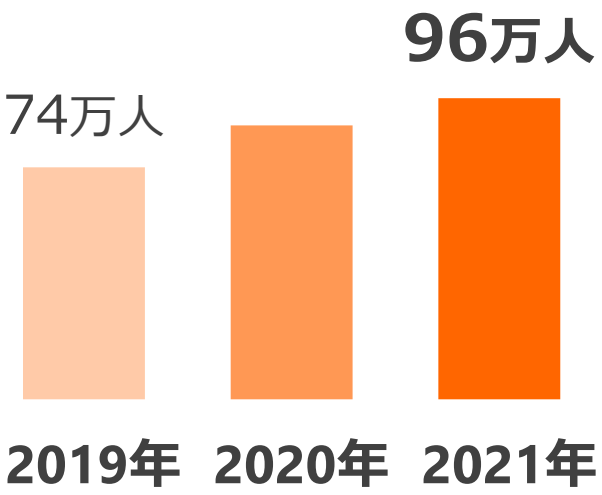


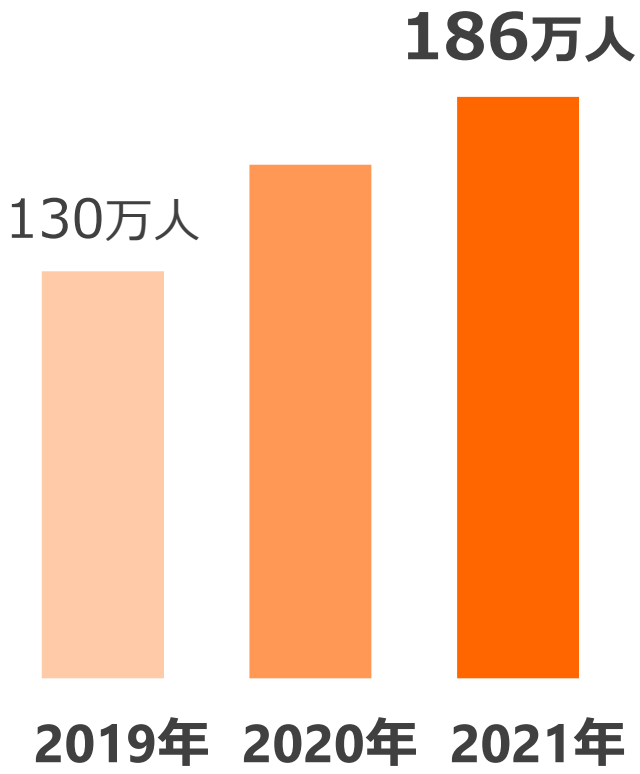
Short RV:Rroc. R. Soc. Lond B. Biol. Sci. 1976; 195, 3-24.より改変

子宮筋腫・子宮内膜症・月経困難症の患者推移

（電子レセプトデータからの拡大推計値、各年7月～翌年6月までの12か月間）



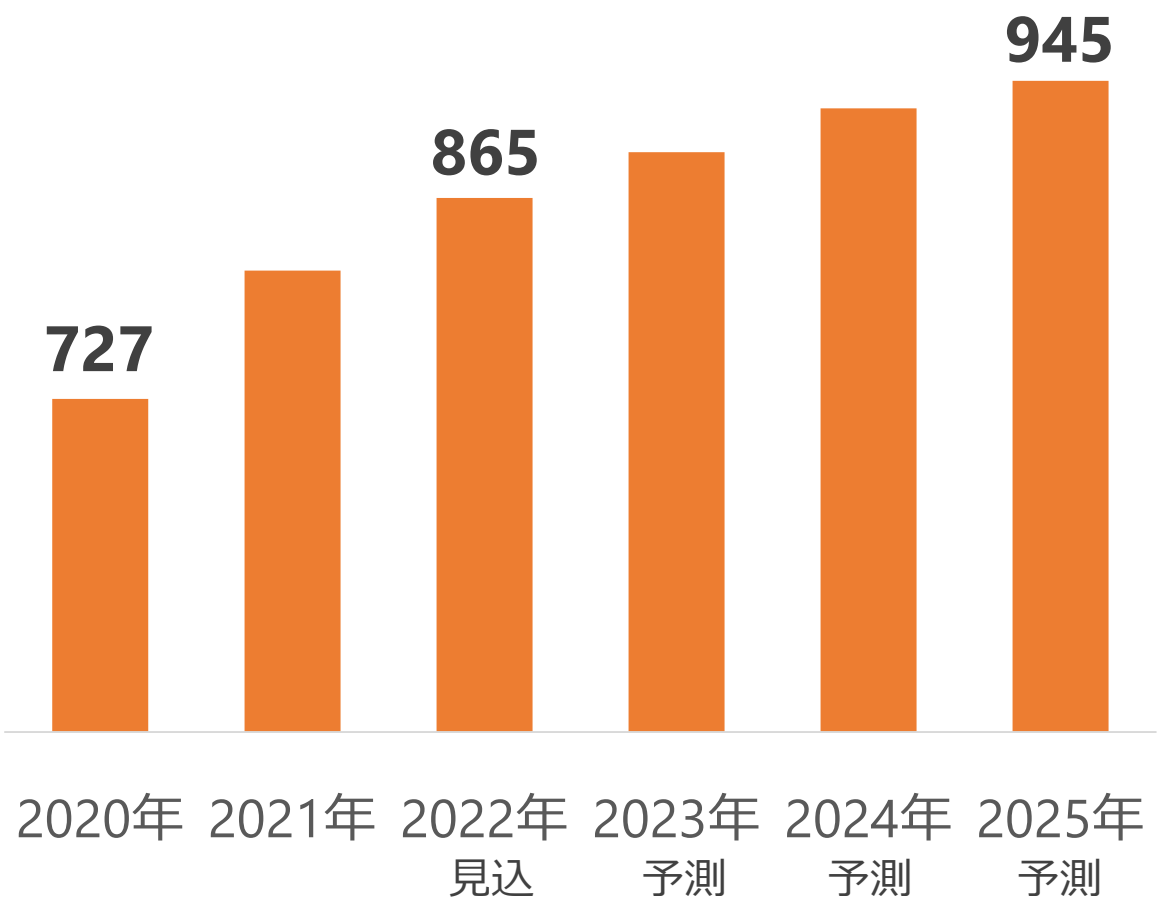




出典：株式会社JMDC調査

産婦人科市場の推移と女性を取り巻く環境変化

産婦人科市場規模推移※ （単位：億円）



女性を取り巻く様々な環境変化

社会の変化

- ✔ 官民連携による女性活躍推進
- ✔ フェムテックなど女性の健康課題解決への注目
- ✔ メディアなど多様な媒体を通じたリテラシーの向上

医療行政の変化

- ✔ オンライン診療の拡大
- ✔ 不妊治療保険適用

新薬の発売

- ✔ ニーズに対応した新薬の上市

産婦人科市場は
持続的な成長を予測

※1 株式会社富士経済「保険適用で注目される産婦人科関連市場のトレンド分析と将来予測」無断転載禁止

ライフステージ別 あすか製薬 産婦人科製品一覧

幼少期	思春期	性成熟期	更年期	老年期
	低亜鉛血症	ノベルジン（コ･プロ※）	更年期障害	ホーリン
	鉄欠乏性貧血	リオナ（コ･プロ※）		
	性感染症	子宮頸部異形成治療薬	ラピッドエスピー（コ･プロ※）	
	避妊薬	ドロスピレノン（LF111）	アンジュ	ノルレボ
	子宮筋腫 子宮内膜症 月経困難症 月経異常	レルミナ	リュープロレリン	
		ジェミーナ（コ･プロ）	フリウェル（AG）	ドロエチ配合錠
		PMS/PMDD治療薬	プラノバール	
	出産関連	マグセント	マグネゾール	メチルエルゴメトリン
		リトドリン	アトニン-O	
	不妊症	HMG注用	uFSH注用	セキソビット
		ルテウム	ゴナトロピン	

癒着防止材

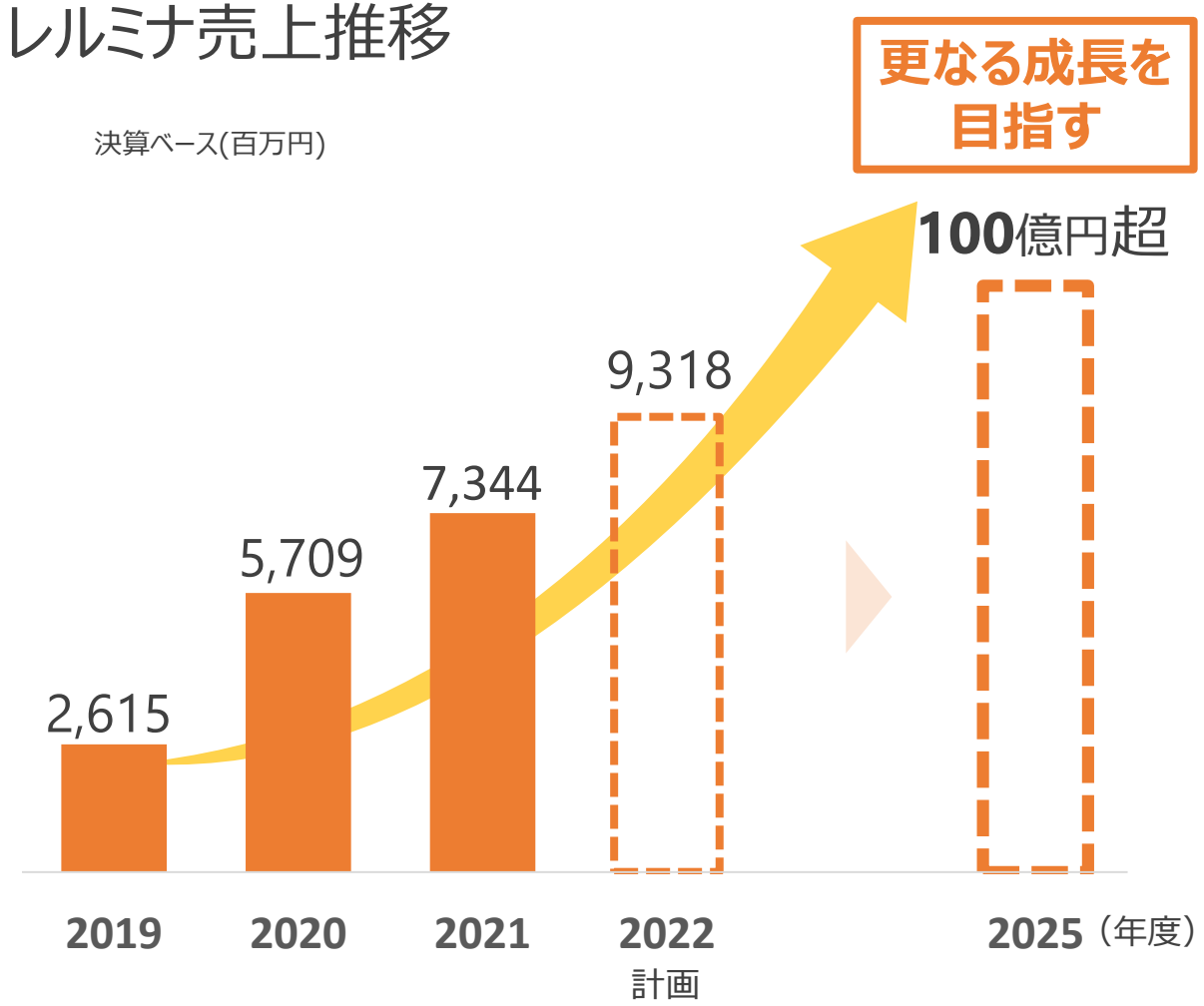
社会のニーズに応え
ラインナップを拡充し
女性医療に貢献

販売中　開発中

※主に産婦人科領域を対象

子宮筋腫・内膜症治療剤 レルミナ（レルゴリクス）

レルミナ売上推移



レルミナの特徴

（2019年発売）

- ✓ 子宮筋腫治療剤として**20年ぶりの新薬**
- ✓ 子宮筋腫治療剤として**初の経口剤**
- ✓ 子宮筋腫に基づく**諸症状を速やかに改善する**
- ✓ フレアアップ現象※が起こらない
- ✓ 2021年12月に子宮内膜症の適応を追加取得

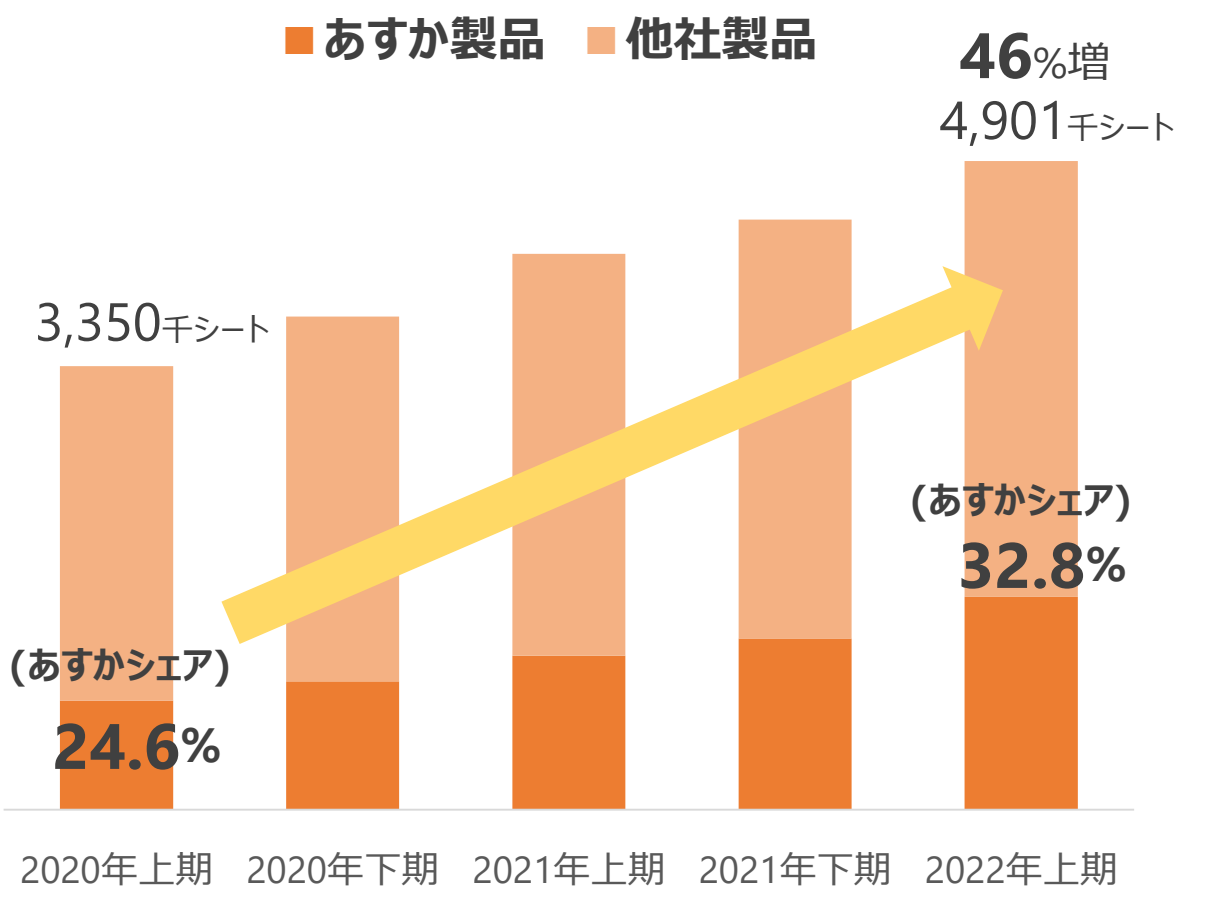
※投与初期に一過性に女性ホルモンの分泌が亢進する現象
不正出血や下腹部痛等の症状が発生するケースもある

子宮筋腫・子宮内膜症の疾患治療に貢献

月経困難症治療へのさらなる貢献

エンサイスデータに基づく自社集計
無断転載禁止

拡大を続けるLEP※1製剤市場（単位：千シート）



あすか製薬のLEP製剤一覧

- ✓ **ジェミーナ※2配合錠**（連続投与が可能な製剤）
- ✓ **フリウェル配合錠**（オーソライズドジェネリック※3）
- ✓ **ドロエチ配合錠**（1社単独発売のジェネリック）

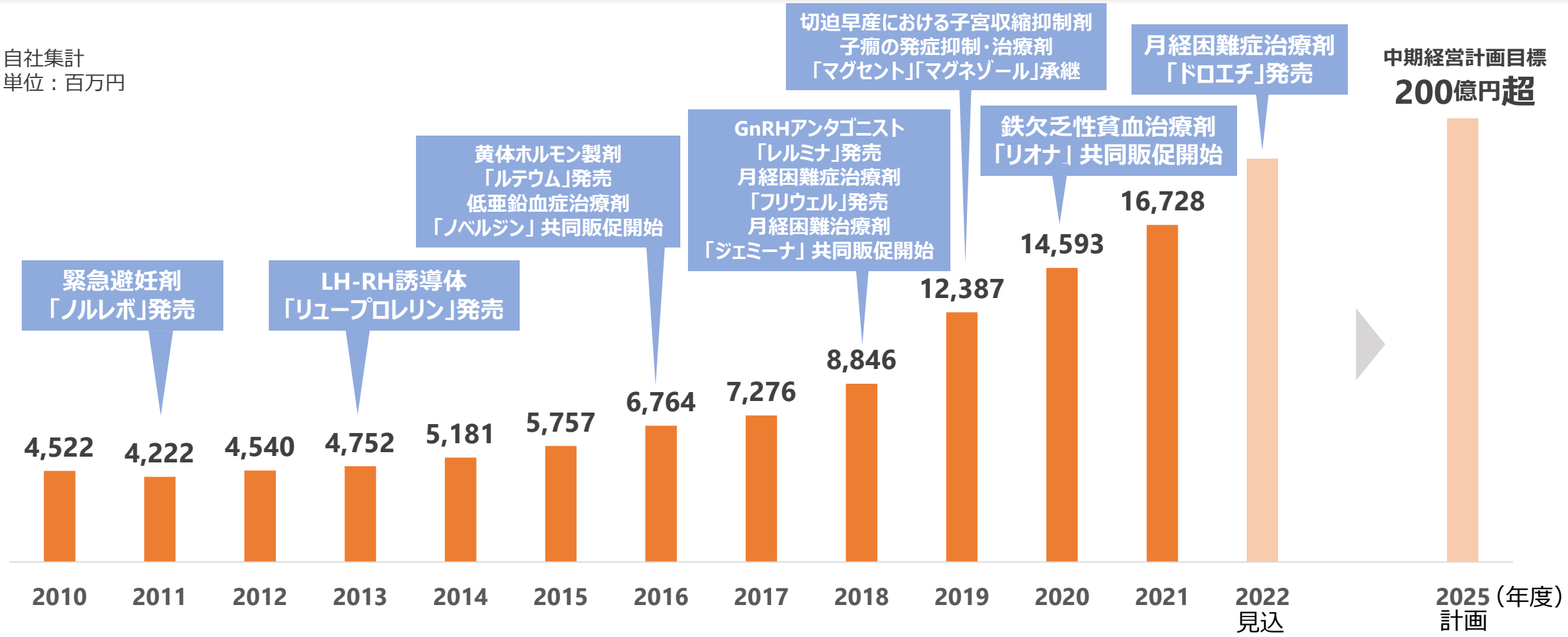
- ✓ LEP製剤3製品をラインナップし月経困難症の患者さんに合わせた治療選択肢を提供
- ✓ 拡大を続けるLEP製剤市場で更なるシェアを獲得し疾患治療に貢献する

月経困難症治療への貢献

※1 低用量エストロゲン・プロゲスチン配合薬の略称　※2 ノーベルファーマ（株）とのコ・プロモーション
※3 先発医薬品の特許権を有している会社から特許実施許諾を受け製造販売される後発医薬品

あすか製薬の産婦人科製品売上推移

自社集計
単位：百万円



女性の健康への貢献により産婦人科領域でNo.1を目指す

甲状腺領域のリーディングカンパニー

あすか製薬の甲状腺領域製品

甲状腺ホルモン製剤

- ✓チラーヂンS錠・散・静注液

抗甲状腺剤

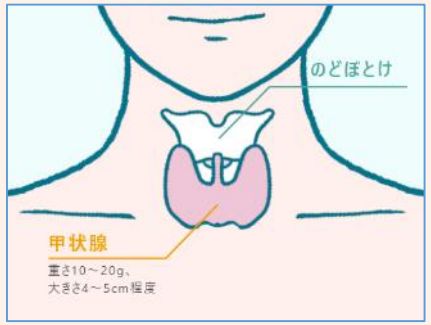
- ✓メルカゾール錠・注
- ✓プロパジール



甲状腺製剤国内シェア
90%以上※

甲状腺とは

のどぼとけの少し下にあり、人が生きるために重要な「甲状腺ホルモン」を分泌しています。



甲状腺ホルモンは、新陳代謝を促進させ、脈拍数や体温、自律神経の働きを調節するなど重要な役割を担っています。

甲状腺の働きに異常があると、全身にさまざまな症状が現れ、「なんとなく調子の悪い状態」が続くことがあります。

症状が多岐に渡るので、他の病気と間違われることも甲状腺の病気の特徴です。



チラーヂン誕生100周年
疾患啓発に取り組む

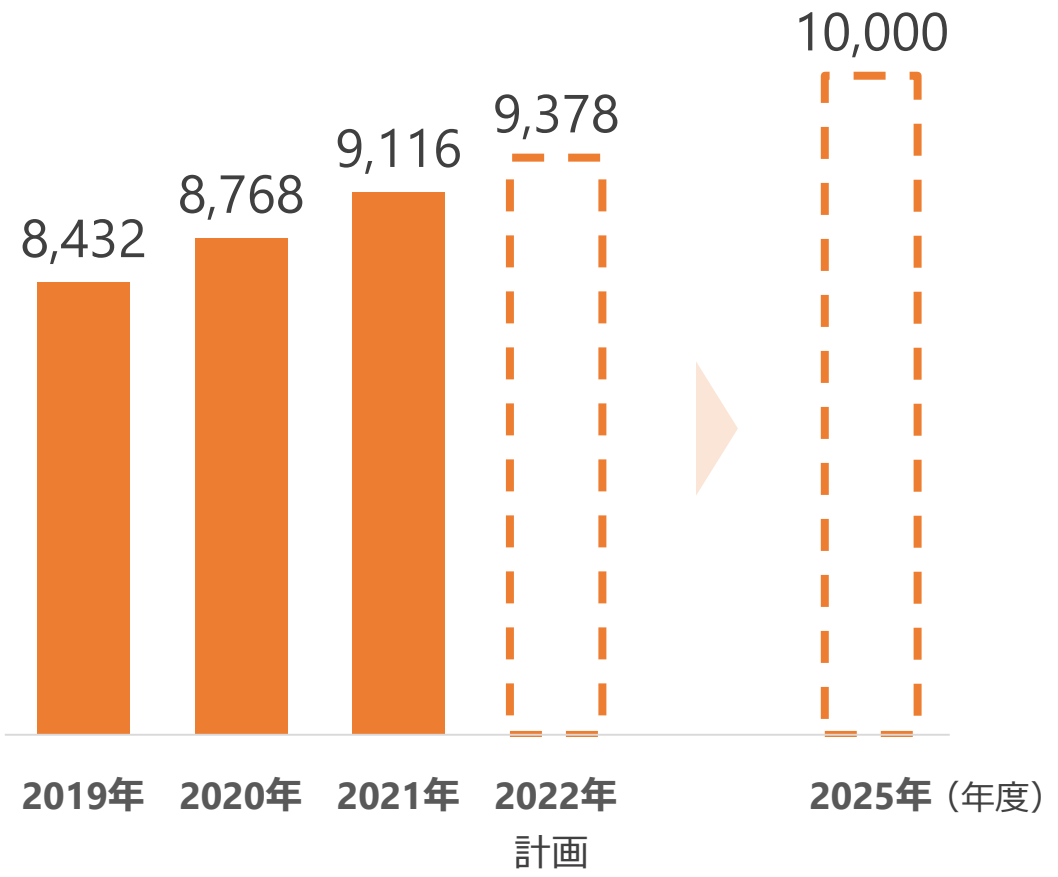
※ 自社推計

甲状腺のリーディングカンパニーとして

甲状腺製品※の売上推移

決算ベース(百万円)

持続的な成長を見込む



代表的な甲状腺の病気

橋本病（慢性甲状腺炎） ■男性 ■女性

甲状腺ホルモンが少なくなる病気

男女比は1：20～30



バセドウ病 ■男性 ■女性

甲状腺ホルモンを過剰に産生する病気

男女比は1：3～5



日本内分泌学会ホームページより当社作図

女性に多い疾患
疾患啓発を推進し治療に貢献

※ チラーヂン、メルカゾール、プロパジール

フェムテックの推進

フェムテックに関わる取り組み　フェムケア＆フェムテック市場規模（消費財・サービス）**約700億円**※1（2022年見込）

女性の健康課題解決に向け
4社コンソーシアム協定を締結※2

TORAY Innovation by Chemistry　あすか製薬株式会社　ネクイノ NEXT INNOVATION　PREMIER WELLNESS SCIENCE

メロディ・インターナショナルと
「分娩監視装置iCTG」
コ・プロモーション契約を締結

Melody International　あすか製薬株式会社

第1回 Femtech Tokyo 出展
(2022年10月)

Femtech Tokyo



あすか製薬株式会社
株式会社あすか製薬メディカル

医療用医薬品に加えて様々なテクノロジー・手法を通して
女性の健康課題解決に取り組む

※1 株式会社矢野経済研究所「フェムケア＆フェムテック（消費財・サービス）市場に関する調査(2022年)」(2022年11月17日発表)
注.各アイテムは小売金額ベースで、各アプリおよびサービスはユーザー消費金額ベースで算出。アプリおよびサービスの市場規模は、個人ユーザーへの課金金額のみで、医療機関や法人向けの利用料、広告収入は含まない。

※2 経済産業省 令和4年度フェムテック等サポートサービス実証事業への採択およびコンソーシアム協定を締結

先端創薬による新薬の継続的創出

2020年4月に川崎研究所を閉鎖し湘南ヘルスイノベーションパーク※へ移転
オープンイノベーションを加速し創薬研究を強化

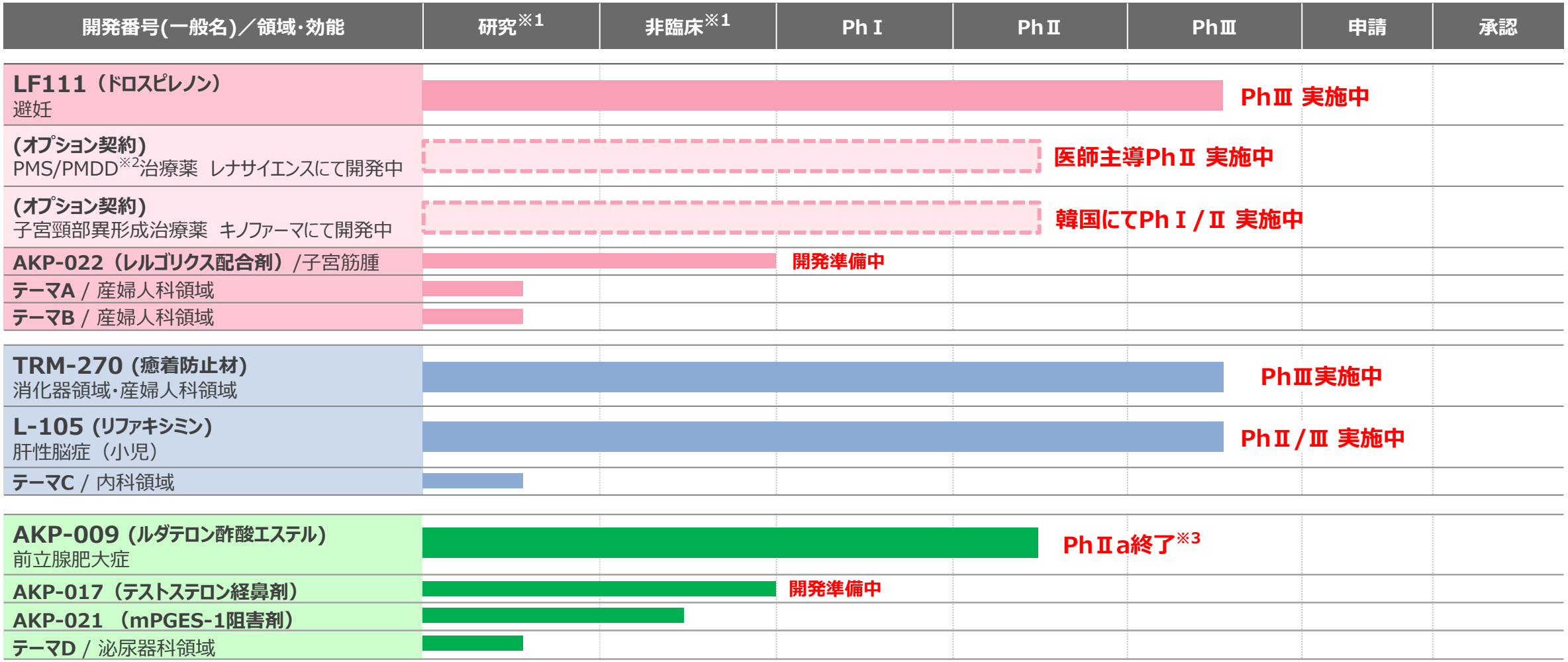
※製薬企業のみならず、次世代医療、AI、ベンチャーキャピタル、行政など、幅広い業種や規模の産官学が結集している施設。他社、他業種との協業を進めることで先端創薬による新薬の創出を目指す。



2021年4月にロンドンオフィスを設立し既存パートナーとの提携を強化
海外製薬企業・バイオテック・学術機関との新規提携をさらに加速

開発パイプライン

研究開発の状況 （2023年2月時点）



※1 研究、非臨床のため詳細は非開示 ※2 月経前症候群/月経前不快気分障害
※3 PhⅡa試験の結果を踏まえ、最大効果を確認するために実施していた追加のPhⅠ試験は終了しました。

海外事業の展開

ベトナム

Ha Tay Pharmaceutical Joint Stock Company（ハタファー社）

ベトナム製薬業界売上高第２位のハタファー社株式 24.9%を取得
持ち分法適用関連会社化し、戦略的パートナーとして提携

新工場の建設支援を実施中

- PIC/S GMPに準拠した新工場の建設を2022年１月着工
  （生産能力20億錠/年　2023年度稼働予定）

中国

H_2受容体拮抗薬「アルタット」輸入販売許可の申請準備中

導出先：Harbin Pharmaceutical Group Co.,Ltd. (中国 黒龍江省)

韓国

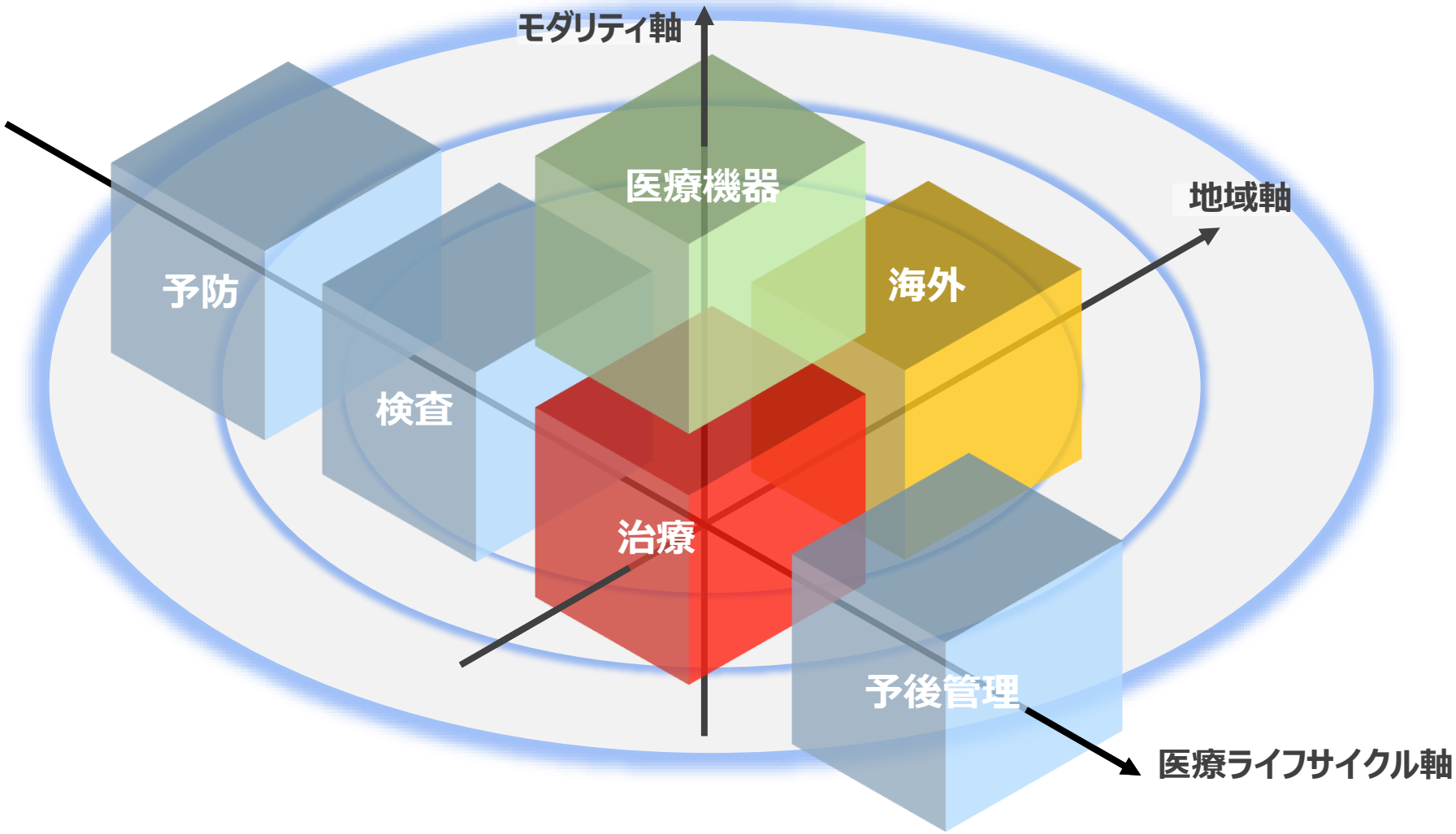
経口避妊薬「ドロスピレノン」に関するライセンス契約締結

契約先：Hyundai Pharm. Co., Ltd. (韓国 ソウル)



ハタファー社と協業しベトナムを中心に
東南アジアへの展開を目指す

スペシャリティファーマを基盤とするトータルヘルスケアカンパニーを目指す



広く健康をサポート

ESGの取り組み

カーボンニュートラルに対する取り組み

CO_2排出量の目標と取り組み

あすか製薬のCO_2削減目標

2030年までに
2013年比 46%削減

あすか製薬のCO_2排出量

2013年	2021年	2030年（目標）
17,726t	12,251t（30%削減）	9,572t

CO_2削減の取り組み

- いわき工場におけるコージェネレーションの導入
- MRのハイブリッド営業車の導入
- 本社LED化

更なるCO_2削減に向けた検討

- クリーンエネルギーへの切り替え
- 太陽光発電設備（PPAモデル）
- いわき工場LED化

目標の達成に向けて取り組んでいく

あすか製薬ホールディングスのESG

経営理念：人々の健康と明日の社会に貢献する

環境

・環境負荷の低減
・環境マネジメント

ガバナンス

・コーポレートガバナンス
・長期的な企業価値向上
・法令遵守とコンプライアンスの徹底

スペシャリティファーマを基盤とする
トータルヘルスケアカンパニーを目指す



当社が貢献していくSDGs

社会

・人材育成
・ワークライフバランスの実現
・従業員エンゲージメント
・革新的な製品の創出
・医療アクセス拡大
・女性の健康への貢献
・アニマルヘルスへの貢献
・サプライチェーンマネジメント
・製品の品質と安全性確保
・製品の適正使用推進
・社会貢献活動
・ダイバーシティ推進

ESG委員会を設置し、当社事業との関連性や社会貢献の観点から、17のマテリアリティ（重要課題）を特定

直近の業績

2023年3月期 第3四半期 連結損益計算書

単位：百万円

	2022年3月期 第3四半期	2023年3月期 第3四半期	増減額	増減率
売上高	44,179	47,259	3,079	7.0%
売上原価	23,485	24,893	1,408	6.0%
売上総利益	20,694	22,366	1,672	8.0%
販売費及び一般管理費	16,017	17,324	1,307	8.2%
営業利益	4,677	5,041	364	7.8%
経常利益	4,790	5,246	456	9.5%
親会社株主に帰属する当期純利益	4,082	4,183	100	2.5%

2023年3月期 連結業績予想（2022年11月7日修正）

単位：百万円	2022年3月期 実績	2023年3月期 期初予想	2023年3月期 予想（修正）	対前年 増減額	対前年 増減率
売上高	56,607	57,500	60,000	3,392	6.0%
営業利益	4,795	4,200	5,200	404	8.4%
経常利益	4,880	4,300	5,300	419	8.6%
親会社株主に帰属する当期純利益	4,290	3,300	4,200	△ 90	△ 2.1%

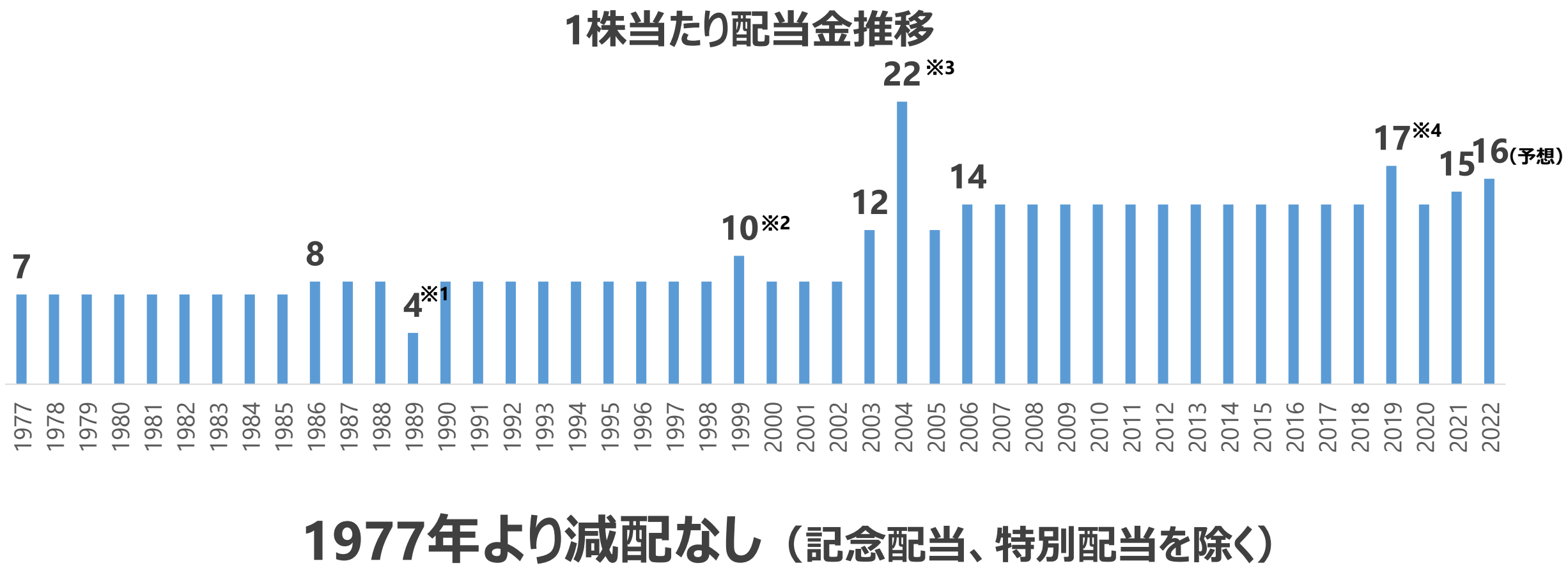
主な要因

- 売上高は医療用医薬品事業での産婦人科領域製品群が好調であることに加え、アニマルヘルス事業における飼料添加物等が堅調であることから前回発表を上回る見通し
- 利益面は増収効果により営業利益、経常利益とも前年度を上回る見込み
- 当期純利益については、前回公表値を上回り、特別損失・特別利益の影響があった昨年度と同水準となる見込み

株主還元

株主還元方針

株主の皆様へ適正な利潤の還元のため安定的かつ継続的な配当を実施することを基本方針としております



1977年より減配なし（記念配当、特別配当を除く）

※1: 6ヵ月決算　※2: 内80年記念2円　※3: 内合併記念10円、特別2円　※4: 内100周年記念3円

株主・投資家様向け情報のご案内

当社ホームページにIR情報を掲載していますので是非ご覧ください
（当社IRサイトURL https://www.aska-pharma-hd.co.jp/invest/）





各種資料（統合報告書、説明会資料等）



個人投資家様向けIRページ

IRメール配信サービス

当社のIRに関する最新情報をメールでお届けします。

IRメール配信サービス登録

IRメール配信
https://www.aska-pharma-hd.co.jp/invest/mail.html





IRサイトはGomez、日興アイ・アール各社より賞を受賞しています

あすか製薬ホールディングスグループ
コーポレートメッセージ

あすも、みらいも、すこやかに

あすか製薬ホールディングス株式会社

ご質問受付中

お問い合わせ先

グループ経営企画部

e-mail：　kouhou@aska-pharma.co.jp